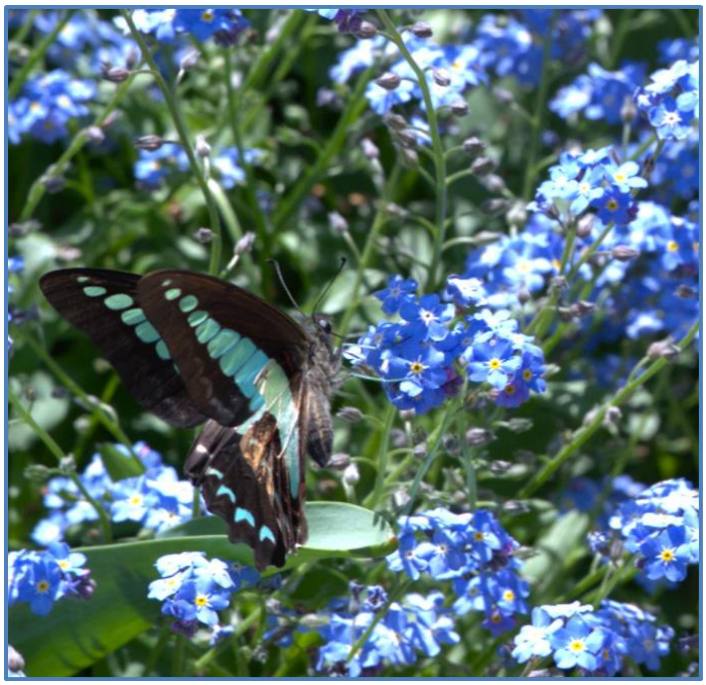
2024 年

第 39 回“自然から学ぶ”写真展



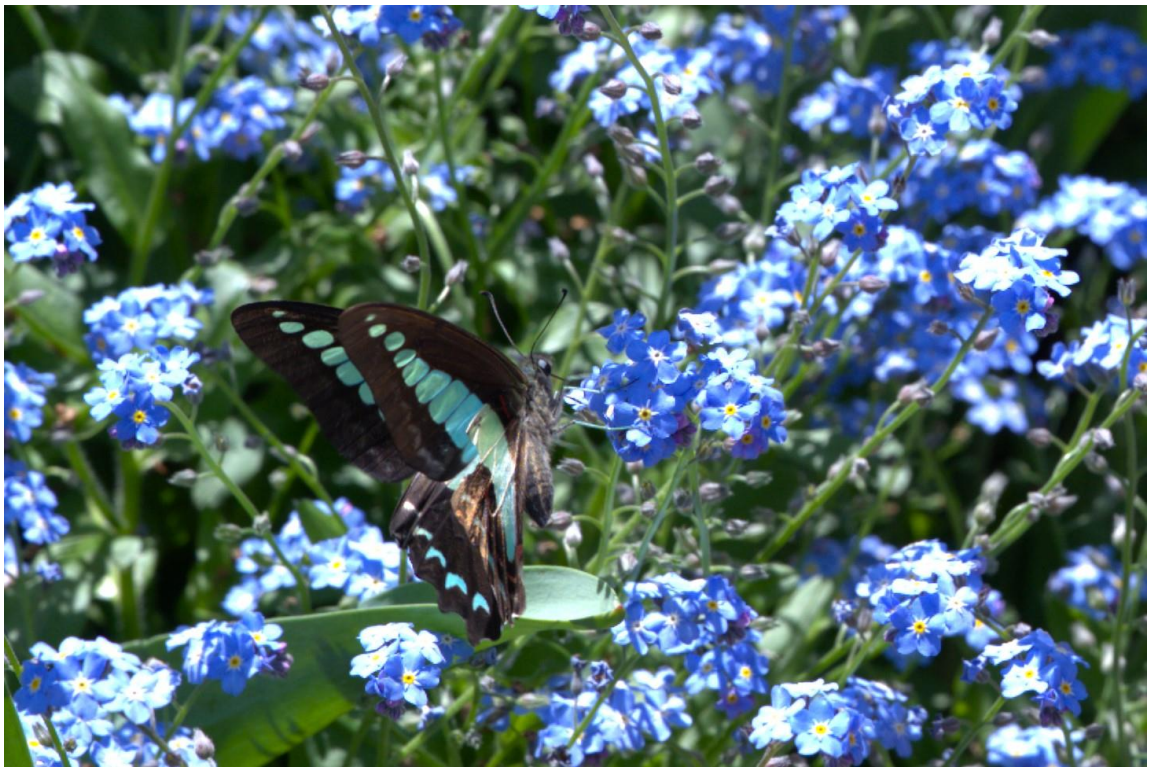
今年度のテーマ部門は「よく見るとわかる生き物の魅力！」です。

①　～⑥はテーマ部門　⑦～は自由部門です。　ご覧ください。

主催　　富山県高等学校教育研究会生物部会

写真展担当：saiga-mutsumi@ed.pref.toyama.jp

1．一心不乱



アオスジアゲハは、他の蝶と比べるとめまぐるしく飛び回り、じっくりと止まっていてくれません。つまり撮影者泣かせの蝶なのです。その姿は一心不乱に活動しているようで、短い一生を精一杯生きているようです。（2024.5 月　砺波市　チューリップ公園）

寺井　康之（志貴野高校）

２．積雪期の楽しみ

新雪に新しい足跡をつけるのは雪が降った翌朝のひとつの楽しみですが、新しい足跡の観察も積雪期ならではの楽しみのひとつです。学校の敷地にハクビシンがいるらしいということは分かっていたのですが、この５本指の足跡が確かな証拠になりました。

（R7.1 月　雄山高校にて）

福田有希子（雄山高校）

３．ザ・擬態

渡り廊下の落ち葉掃きの際、落ち葉の中に鮮やかなオレンジ色が一瞬見えたような気がしたので良く探すと掃き集めた落ち葉にアケビコノハが紛れていました。枯葉にしか見えない前翅も明るく鮮やかなオレンジ色の後翅も頭部の丸い突起も魅力的です。

（R6.12 月　雄山高校にて）

福田有希子（雄山高校）

4. 幻の魚

「幻の魚」とも呼ばれるイトウ。最大 1.5m まで成長する日本産淡水魚では最も大きく成長する魚です。野生下での分布は北海道のみで、絶滅危惧種に指定されています。漢字は魚へんに鬼と書きます。その漢字にふさわしく大きな体に平らな頭が特徴です。森の中の水族館。のスタッフさんの解説によると体は大きいが餌を食べる速さでニジマスに負けちゃうのんびりものだそうです。

（撮影：山梨県立富士湧水の里水族館　森の中の水族館。）

雑賀 睦実（高岡高校）

５．日本最小のネズミ

日本最小のネズミであるカヤネズミ。世界に約千種ほどいるネズミの仲間のなかでも珍しい草の上に巣を作るネズミです。寿命は半年から１年と短く、天敵も多くいます。降水量の多い日本では森林が発達しやすいため、人間の働きかけで維持される草原で生活するこのネズミは近年の草原の減少に伴い絶滅危惧種に指定されています。田んぼ周辺にイネを利用して巣を作ることも多いため、イネを食べる害獣として扱われたことも多かったそうですが、森の中の水族館。のスタッフさんの解説によると、近年イネはほとんど食べないことが判明したそうです。可愛いですね。（撮影：山梨県立富士湧水の里水族館　森の中の水族館。）

雑賀 睦実（高岡高校）

６．擬態の達人

フクロウに似ていますがヨタカの仲間のオーストラリアガマグチヨタカです。ヨタカはフクロウと同じく音を立てずに飛ぶことができます。左の個体は木と見分けがつかないくらい動かなかったです。この能力を生かして、待ち伏せして近づいた昆虫などを捕食するそうです。

（撮影：那須どうぶつ王国）

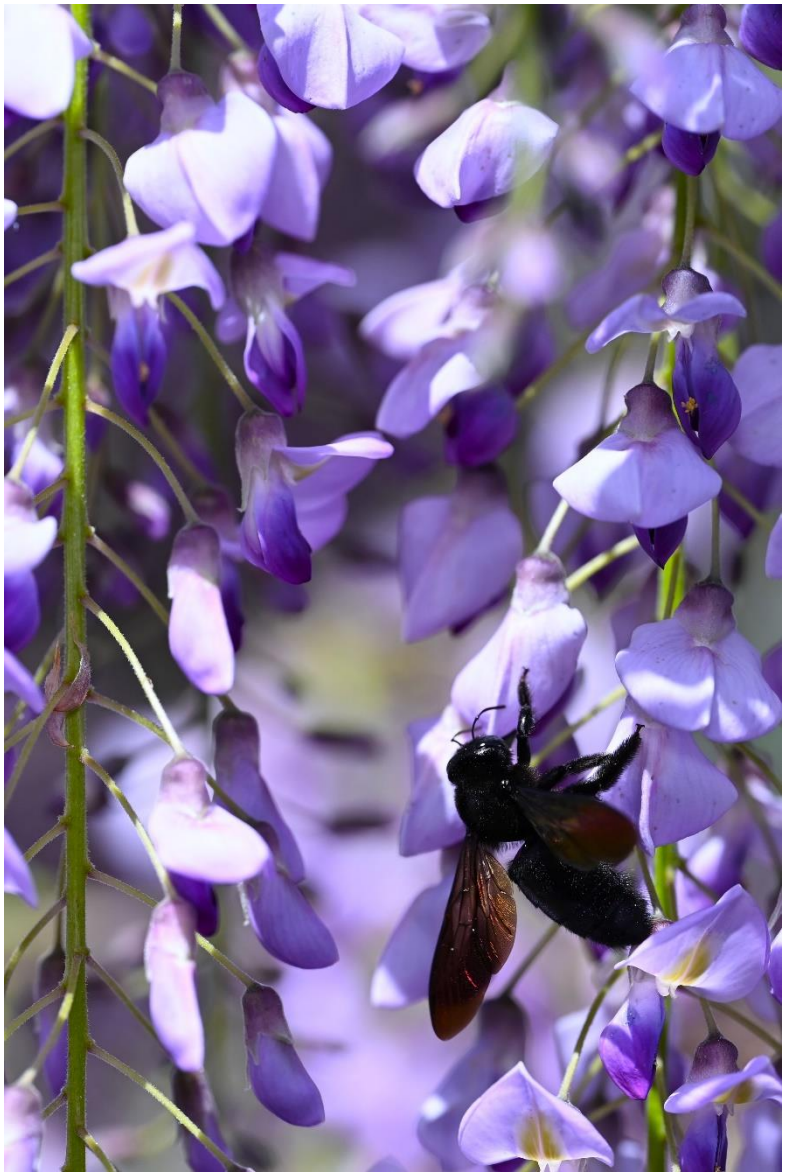
雑賀 睦実（高岡高校）

７．ライチョウの親子はどこ？

立山の浄土山の近くでライチョウの親子に遭遇しました。

金子 靖志（富山東高校）

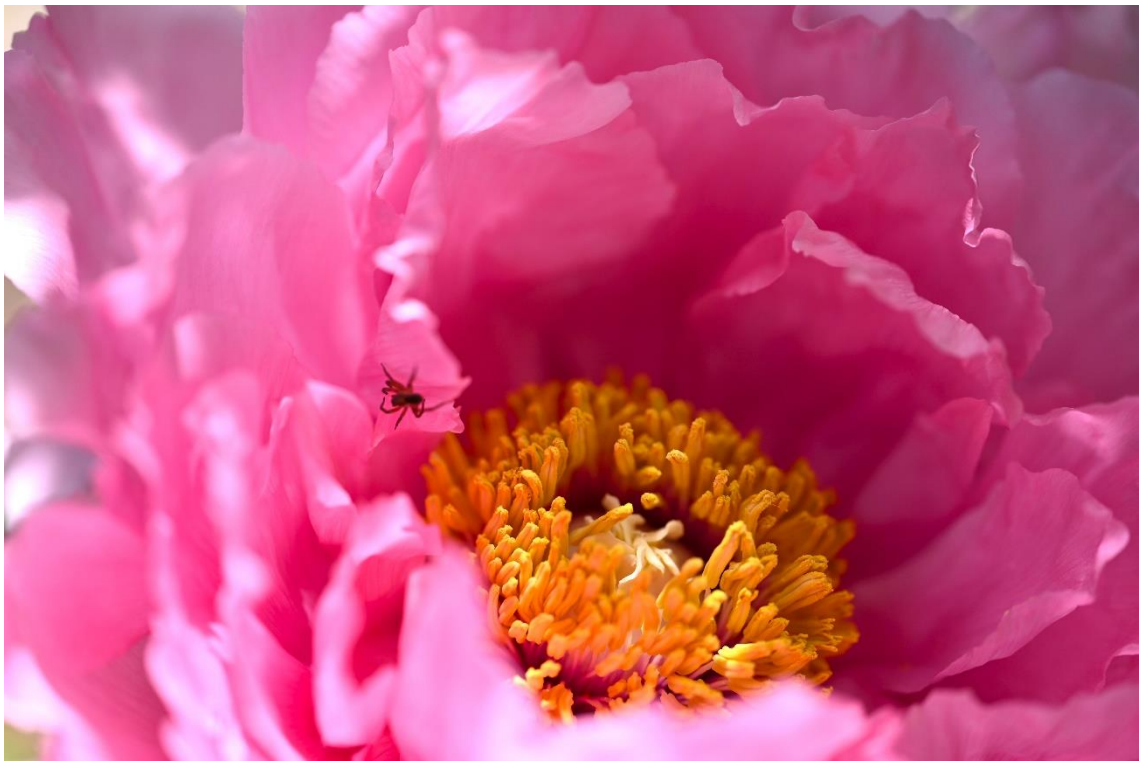
８．黒いクマバチ



自宅の藤の花が満開になると、毎年クマバチがやってきます。今年は真っ黒なクマバチがいて驚きました。調べてみるとタイワンタケクマバチという外来種で、生息域をだんだんと北側へ拡げているようです。（2024.4 月 砺波市 自宅）

寺井 康之（志貴野高校）

９．立てば芍薬、座れば牡丹…



写真は牡丹ですが、芍薬も同属で、ぱっと見では見分けがつかないこともあります。奈良時代くらいに中国から薬用植物として入ってきたそうです。それが今では観賞用園芸品種として長く愛され、多彩な彩りで魅了してくれます。（2024.4 月　砺波市　自宅）

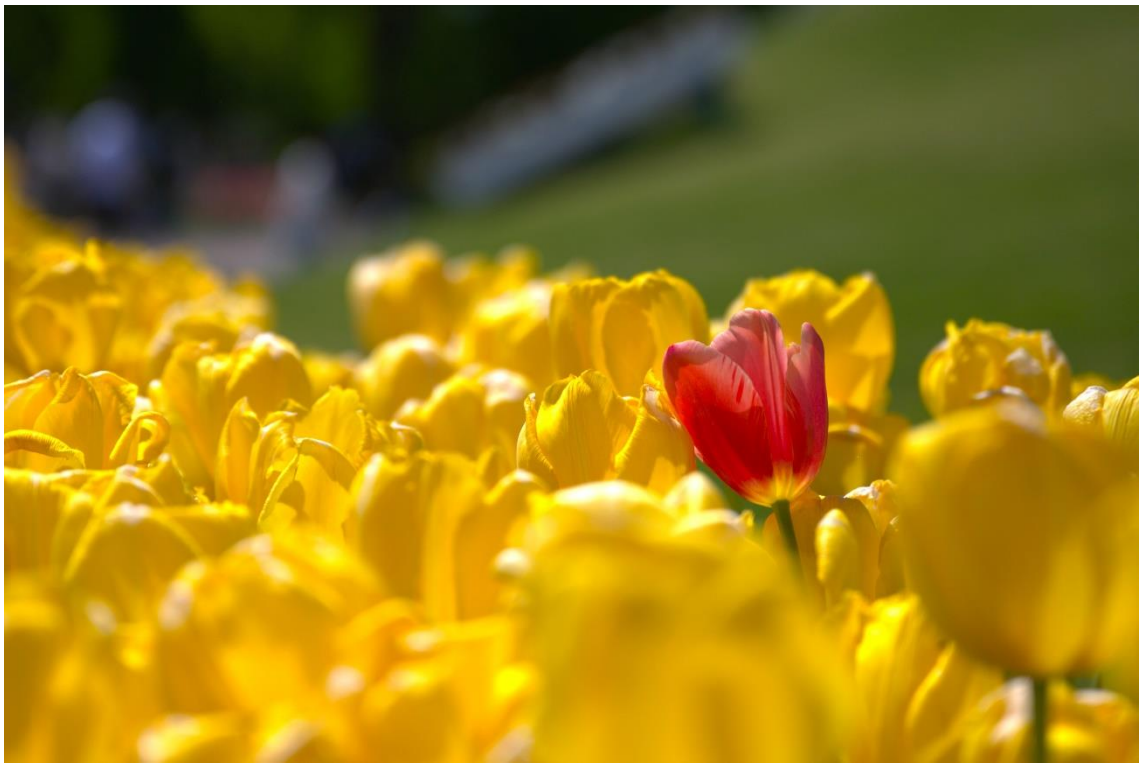
寺井　康之（志貴野高校）

１０．粉まみれ

全身が粉まみれになるのも構わず、コハナバチ科の一種が盛んに花粉を集めています。なりふり構わず一つのことに没頭する姿に、感動した 1 枚です。ちなみに花はハクサイがとう立ちしたもので、アブラナ科らしい花の形状をしています。（2024.4 月　砺波市　自宅）

寺井　康之（志貴野高校）

１１．紅一点



富山県を代表するチューリップの品種「黄小町」の中に１輪だけ赤色の品種が混じっていました。植え付けのときに紛れ込んだのか、球根生産のときに紛れ込んだのか。後者だとしたら、品種混入のミスということになります。写真としては、とっても絵になるのですが…。

（2024.5 月　砺波市　チューリップ公園）

寺井　康之（志貴野高校）

１２．この実は食べれる？

これは「イヌマキ」という常緑樹です。毎年秋になるとは写真のように色鮮やかな実がなります。食べれそうと思って一口食べると危険！実は食べれる部分と食べれない部分があります。赤紫に熟した部分は食べれますが、緑色の部分は種子で有毒のため、食べれません。赤紫に熟した部分を食べてみると、ほんのり甘酸っぱいかんじ。ぜひ見かけたら食べてみてください。

橋本 樹（中央農業高校）

１３．蝶畑

夏の弥陀ヶ原ではどこを向いてもこのコヒョウモンが飛び回っており、花よりもきれいに舞っていました。立山 3 名蝶として知られる 1 種で、まだら模様がとてもきれいです。

雑賀 睦実（高岡高校）

１４．　耳をすませば

室堂平を歩いているとしっかりとした羽音が聞こえてきました。音の出所を見るとオオマルハナバチがチングルマの花を一つ一つ飛び回っていました。力強さを感じる大きな体ですが、実はミツバチ科に属しています。ふさふさした毛がかわいらしいですが、お尻が白いのは外来種のセイヨウオオマルハナバチ。作物の繁殖用に輸入された個体が逃げだして広まりつつあるようです。

雑賀 睦実（高岡高校）

１５．　光るサーモン

ニジマス特有のピンクの模様が映えるアルビノニジマスです。トラウトフィッシングや釣り堀でおなじみの魚ですが、実は外来種。きれいなピンクの切り身はサーモンの代表ですね。森の中の水族館。のスタッフさんの解説によるとアルビノニジマスは目立ちすぎて真っ先にサギに狙われるそうです。

（撮影：山梨県立富士湧水の里水族館　森の中の水族館。）

雑賀 睦実（高岡高校）